

目 次

2003年春季特別展

「川とともに生きてきた」を終えて

(秋山晶則) 1

蔵書整備アドバイザーについて..... 4

充実した蔵書をめざして(前野みち子) 5

解答はない - 「創造性」のために

(茂登山清文) 6

文学部図書的第一步(久宗順子) 7

使ってみよう!電子ジャーナル Part.4 8

特別図書(人文・社会科学系)一覧.....11

館 燈

No.148

2003. 8. 15

<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/koho/kanto/>

2003年春季特別展「川とともに生きてきた」を終えて

秋山 晶則

1. 北高木家文書との出会い

名古屋大学附属図書館では、社会貢献の一環として、特色ある所蔵資料を核とした展示会・講演会を連年開催しているが、今回の特別展は、2001年春に開催された展示会「川とともに生きてきた」の続編として企画されたものである。その主旨を凝縮したものが、副題「新発見史料・北高木家文書にみる木曾三川流域の歴史・環境・技術」であった。

目下、附属図書館及び同研究開発室では、木曾三川流域治水史料の宝庫として知られる高木家文書(総点数8万点以上)をはじめとする所蔵資料の整理・研究とともに、社会貢献も視野にいたした学術情報の発信機能の強化とその高度活用にもむけ、関連資料の調査や電子化プロジェクトを進めている。その過程で出会ったのが、今回、新発見史料として展示公開することができた北高木家関係文書である。

北高木家とは、附属図書館所蔵高木家文書を伝来した旗本西高木家の分家である。同じく分家の東高木家とともに、三家揃って美濃国の山間盆地(現岐阜県養老郡上石津町域)に本拠を構え、江戸時代を通じて、木曾三川流域治水を管掌したことで知られている。

この高木三家のうち、本家の西家は、維新後も同地に残り、学区取締や郡長・衆議院議員などの公職を歴任するなど地方名望家として存続し、近代史料も含めた膨大な文書を伝えた。しかし分家の東・北家は、維新後相次いで同地を離れたため、その関係文書は分散することとなった。東家文書については、徳川林政史研究所や名古屋市蓬左文庫ほか、個人所蔵の分が確認されているが、北家については、早くに絶家となったため、その旧蔵文書は、すべて散逸したか、あるいは灰燼に帰したものと考えられてきた。

しかし今回、岐阜県内のある個人宅に関連史料が保存されていることがわかり、調査の結果、北高木家に関わる貴重な史料群(推定文書点数3千点以上)であり、新出の治水史料を豊富に含むことを確認した。その後、幸いにも所蔵者の許可が得られ、高木家屋敷遺構をはじめ関連資料の保存・活用を進めてきた岐阜県上石津町教育委員会との連携のもと、研究開発室を中心に文書群の整理・研究が開始されたのである。ただし、当該文書群は、伝来の経緯もあり、近世段階の原秩序は既に失われており、襖の下張として再利用されていたものや断簡化した文

書・絵図を数多く含んでいたため、まずは現状を記録した上で、神経衰弱ゲームにも似た復元作業や修復作業を根気よく続けることから始めねばならなかった。

2. 特別展の概要

そうした事情もあり、文書群の全貌解明には、相当な時間を要することが予想された。しかし、重要な新出史料であり、昨年度新設された地域貢献特別支援事業費（文科省）の対象事業にも選定されたことから、この



間の取り組みの成果を広く公開するため、前述の岐阜県上石津町教育委員会をはじめ愛知・岐阜・三重の各県教育委員会及び名古屋市教育委員会の後援を得て、2003年3月7日から10日間の日程で特別展及び講演会を開催する運びとなった。

会期中は、新聞数紙による報道や前回参加者へのDM送付等の効果もあずかって、県内外の各地より数多くの来場者があり、熱心に参観していただくことができた。この場をおかりして、所蔵者をはじめ、ご協力いただいた関係各位、各機関にお礼を申し述べる次第である。

展示会2日目には、関連企画として「地域資料の高度活用に向けて」と題した講演会が催され、「北高木家関係文書にみる木曾三川流域治水」（秋山）、「甞る地域空間 - 尾張と美濃の近世・近代 -」（溝口常俊）、「大学と地域社会 - 情報資源コラボレーションの可能性 -」（逸村裕）の3講演が行われた。地域に残された歴史情報資源の活用について、歴史情報資源の統合のメリットと展望（秋山）、地理情報システムを用いた地域像の復元と比較考察（溝口）、大学と地域とのコラボレーション可能性（逸村）の三つの角度からの提案があり、活発な質疑が交わされた。ここで提示された方法が、附属図書館で構想中の「名古屋大学学術情報コラボレーションシステム」にも活かされるよう努力し

たい。

次に、実際の史料展示についてであるが、北高木家関係文書のうち「治水」に絞って特徴的な史料を選び、「川通掛（北）高木家」「宝暦治水前後」「流域治水と身分制」の三部構成により、木曾三川流域の人々が、どのように「川とともに生きてきた」のか、人と自然の関係史をたどることとした。また、原史料を展示する会場に隣接して、高木三家の歴史を複製史料で概観できるパネル展示室を設けた。さらに、学内教育研究改革・改善プロジェクト経費により開発中であった「高木家文書デジタルライブラリー」の試験公開もあわせ行った。

なお、今回の展示全体を通して、特に重視したのが、現代でも難問とされる、土砂の堆積作用がもたらす問題とそれへの流域村々・関係機関の対応である。北高木家関係文書には、西高木家文書や笠松堤方文書では比較的手薄な18世紀初頭の治水史料が豊富に含まれており、その中から、土砂堆積・水位上昇がもたらす逆水や排水障害など、河川環境の変化をめぐる地域間の確執と調整に関する事例を選択展示した。

この問題の延長線上に浮かびあがってくるのが、三川分流プランにもとづき、宝暦4～5年（1754～55）にかけて多大な犠牲を払って実施された「宝暦治水」事業である。この事業計画については、従来、史料的根拠が明示されない

まま、幕府勘定奉行吟味役と笠松代官を兼務した井沢弥惣兵衛為永の創意によるものとされてきた。しかし今回、北家文書を精査するなかで、むしろ地域村々による現状分析・改善提案として現れてきたプランを幕府が採用した蓋然性が高いことが分かり、該当史料を展示したところ、大きな注目を集めることとなった。この史料的根拠の問題に関連して言えば、近年、木曾三川治水について、流域を中心に広く共有されてきた「常識」にも大きなゆらぎが生じている。その典型的事例が、「御困堤」や宝暦「薩摩義士」をめぐる評価である。歴史的事実とされてきたこれらの事績が、近代以降に醸成あるいは創出された可能性が様々に指摘されているのである（本誌No.139参照）。

3. 今後の展望

こうした「ゆらぎ」は、むしろ流域の自然と人間の関係史を再考する好機ととらえるべきであろう。附属図書館では、いっそうの社会貢献をめざす立場から、こうした動向にも積極的に応えていく必要があるが、それには、解釈の基礎となる歴史情報資源の確保が大きな課題となる。関連史資料をリンクづけることで、地域における自然と人間の関係史をつづった国内外でも希少なデジタルアーカイブズの構築が可能であり、それに向けた環境整備を進めていかねばならない。

幸いにも、附属図書館及び同研究開発室が、

愛知県及び岐阜県上石津町等と連携して進めるプロジェクト「木曾三川流域の歴史情報資源の研究と活用」が、昨年度に続き、今後2か年にわたる地域貢献特別支援事業として採択されることとなった。この事業では、以下の3つの目標を掲げている。第一に、高木三家を核とする未調査・新出史料をはじめ、関連史資料の整理・研究・デジタル化を継続して行い、地域における文化財保存とその活用を支援していくこと。第二に、電子図書館機能を発展させたコラボレーションシステム開発により、自然と人間の関係史を中心とした生涯教育・総合的学習等へのコンテンツ提供を行い、地域研究そのものの活性化を図ること。第三には、その成果公開を通じて、広範な疑問に答えるとともに、コラボレーションシステムへの地域からの参加とデータ共有を進め、地域文化を再考する一契機となることである。課題山積であるが、「？」公開の日の近からんことを期する次第である。

なお、附属図書館及び同研究開発室では、今秋、「川」に続く企画として、伊藤圭介生誕200年記念展示会・講演会を開催予定である。伊藤圭介が遺した博物誌稿本「錦窠図譜」を通じて（「川」とはまた違った形で）、自然と人間の関係史を見つめる企画であり、是非とも多くの方々の参観をお願いしたい。

（あきやま・まさのり 附属図書館研究開発室）

伊藤圭介生誕200年記念展示会・講演会のお知らせ

展示会テーマ：錦窠（きんか）図譜の世界 - 幕末・明治の博物誌 -

日時：2003年10月17日(金)～10月30日(木) 10:00～17:00（土日を含む）

場所：名古屋大学中央図書館4F展示室

講演会テーマ：博物誌の時代と伊藤圭介

日時：2003年10月18日(土) 13:00～16:00

場所：名古屋大学中央図書館5F多目的室

講師：磯野直秀（慶應義塾大学名誉教授）「日本の博物誌と伊藤圭介」

土井康弘（国土館大学非常勤講師）「日本初の理学博士の誕生」

杉山寛行（名古屋大学大学院教授）「伊藤圭介と医学」

蔵書整備アドバイザーについて

情報管理課資料管理掛

平成13年7月開催の附属図書館蔵書整備委員会の決定に基づき、下記のような趣旨と内容で蔵書整備アドバイザーによる資料整備支援活動が行われています。これまでの成果と今年度のアドバイザーを紹介させていただきます。

1. 趣旨

近年の学術研究の進展に伴う学習用資料の多様化に対応し、適切な蔵書構築を行うことにより、学生に創造性豊かな学習環境を提供することが求められていることに鑑み、中央図書館の学習用資料整備を支援するため、教官をメンバーとする蔵書整備アドバイザー（以下アドバイザーという。）を置く。

2. 支援内容

アドバイザーによる学習用資料整備の支援内容は次のとおりとする。

中央図書館学習用資料の補完 蔵書更新図書を選定 蔵書評価及び提言

3. 平成14年度末までの蔵書更新・推薦結果

点検冊数 80,000 (所要時間 180h) 買換 1,100、移動 4,400、廃棄 4,050 各冊、推薦点数 1,000点

4. 平成15年度蔵書整備アドバイザー名簿

部 局	氏 名	部 局	氏 名
文学研究科	小川 正廣	工学研究科	井上 剛志
文学研究科	稲葉 伸道	工学研究科	野田 利弘
文学研究科	小田 雄三	生命農学研究科	佐々木康壽
文学研究科	木俣 元一	生命農学研究科	柳沼 利信
文学研究科	釘貫 亨	生命農学研究科	石川 明
文学研究科	田村加代子	生命農学研究科	森 仁志
文学研究科	周藤 芳幸	国際開発研究科	中條 直樹
文学研究科	高橋 亨	国際開発研究科	二村 久則
文学研究科	杉山 寛行	国際開発研究科	大室 剛志
教育発達科学研究科	寺田 盛紀	国際開発研究科	岡 美江
教育発達科学研究科	野口 裕之	多元数理科学研究科	佐藤 肇
法学研究科	加賀山 茂	環境学研究科	高野 雅夫
法学研究科	大屋 雄裕	環境学研究科	大月 淳
法学研究科	田村 哲樹	環境学研究科	田中 重好
法学研究科	進藤 兵	環境学研究科	高橋 誠
経済学研究科	木村 彰吾	情報科学研究科	米山 優
経済学研究科	福澤 直樹	情報科学研究科	北 栄輔
経済学研究科	小川 光	国際言語文化研究科	中井 政喜
理学研究科	大澤 幸治	国際言語文化研究科	安藤 重治
理学研究科	大木 靖弘	国際言語文化研究科	前野みち子
理学研究科	金森 章	国際言語文化研究科	藤井たぎる
医学系研究科	中川 善之	総合保健体育科学センター	蛭田 秀一
医学系研究科	玉腰 暁子	総合保健体育科学センター	石黒 洋
医学系研究科	浜松加寸子	総合保健体育科学センター	佐々木 康
工学研究科	伊藤 彰英	附属図書館	逸村 裕
工学研究科	沓名 宗春	附属図書館	秋山 晶則
工学研究科	横水 康伸		

平成15年6月現在、 新メンバー、敬称略

充実した蔵書をめざして

前野 みち子（元蔵書整備委員長）

蔵書整備アドバイザー制度が発足してから3年目を迎える。平成13年度4月、二度目の蔵書整備委員長をお引き受けした当初から、この制度をなるべく早く滑り出させたいと考えていた。中央館の研究図書フロアが、増築後に各部署から受け入れた不用本の山によって一部はゴミ捨て場と化してしまった事情については、今は触れない。改革はまず学生の教育に直接つながる3階の学習図書フロアから、というのが差し迫った課題だった。このフロアが長い間、ひょっとしたら名古屋大学図書館創立以来（？）教官の参加する組織的で統一的なチェックを受けないまま運営されてきたことに気づいたのは、平成11年度の蔵書整備委員長在任中のことである。もちろん、新規に購入される学習図書の選定に関しては、これまでも継続的に知識豊かで情熱ある図書館職員の方々が携わってこられ、教官の推薦図書制度もずいぶん前から導入されて蔵書の充実に大きな役割を果たしてきた。しかし、全学の学部生が利用する学習図書フロアの運営に教官の組織的な参加がないという状況は、どう考えても致命的なものに思われた。

このような思いが日増しに強くなっていった背景には、おそらく二つのことが関係している。一つは、委員長という責任ある立場に立ってから、必要に迫られて理系の商議員の先生方とお話しする機会が増えたことである。文系、とくに人文科学系の人間には概して書物に対する特別の思い入れがある。現代のように出版物があふれる時代には、書物はもはや信仰の対象ではないが、少なくとも深い愛着の対象であり、ものによってはなお崇敬の対象なのだ。こんな気持ち持ちは理系の人間にはゼーッタイ分かるまい、彼らにとって本は実用に供するもの、役に立つものであるにすぎないのだから、と独断と偏見に満ちた文系の人間はしばしば思う。ところが、

そういう典型的な文系人間としてわたしが知り合った理系の商議員の先生方はみな存外さばけた方たちで、親しくお話しするうちに図書館に対する思いをかなりの程度まで共有できることが分かってきた。そんな中で、理系の学習図書の3Kを地で行くような悲惨な状況を耳にしたのである。使い古され、汚れて臭いがするほど傷んだ本、今日ではもう全く通用しない学説に立って書かれた本が書架にぎっしり並んでいるという。職員の方に事情をうかがうと、傷みがひどい本については定期的にチェックし新版があるものはできるかぎり更新しているが、教育的な観点からの廃棄や新本選定のチェックなどはやはりそれぞれの分野の教官の協力がなくては無理というお話で、一々ごもつとも、どうして今までこんなに当たり前のことが行われてこなかったのか只々あきれるばかりだった。日進月歩の理系の分野だからこそ生じるこのような惨状は、古い学説にもそれなりの価値を認めとかく保存を旨とする文系の感覚からすれば想像がつきがたく、中央館の学習図書整備のあるべき姿について、初めて現実的で具体的なイメージが見えたような気がした。

もう一つのきっかけは数年前から電子図書館推進委員会の主催で行われるようになった図書館見学に参加し、学習図書に対する他大学の様々な取り組みに触れて、その都度ともかくまずできるところから改善していかなければという思いを新たにしたことである。専門の蔵書デザイナーによって構成された私立大学図書館の立派な蔵書には到底及ばないにしても、毎年度各分野の担当教官に学習図書予算の一部を割り当て、整備に協力をお願いしている大学などいくつかの例が参考になった。考えてみれば本学には、他大学と異なり、図書館運営の全学的決定機関である立派な（？）教官組織、商議員会があるのではないか。灯台もと暗し、本学ならば

商議員を通じて全学の教官に学習図書整備への協力を働きかけることができる。悲惨な現状と教官によるチェックの必要性を訴えてともかく組織の形を作ってしまうと、あとは少しずつでも何とか動き出すにちがいない、という予感は幸い間違っただけではなかった。

日々忙しさを増している昨今、また仕事が増えるという不満の声がなかったとは言えないが、そこは押しの手ばかりでなくじっくり待つことも学んだ。アドバイザーとして率先して手を挙げてくださった先生方、お願いに快く応じてくださった先生方、そしていつも惜しまずご協力くださった職員の方々の手によって、現

在この制度はしっかり軌道に乗りはじめているように見える。学問の境界が大きく変容しつつある時代ゆえ、アドバイザーとして正式に登録されていない多くの先生方にも行き当たりばったり声をかけて応援をお願いした。そのせいか図書館の仕事を離れてしばらくたつ今日でも、わたしを図書館の回し者と勘違いしておられる方がいる。「あのう、実はまだやってないんです。」「どうぞお暇な折にぜひ。」そう答えながら、そろそろまた一渡り自分の縄張りをチェックしてこようかなと思ったりしているこの頃である。

(まえの・みちこ 国際言語文化研究科教授)

解答はない 「創造性」のために

茂登山 清文 (前蔵書整備アドバイザー)

最初にお話をきいたとき、「蔵書整備アドバイザー」と聞いて、おもしろそうだなと思い、二つ返事で引き受けたのですが、その後、実はちょっとした葛藤がありました。私自身が、依頼された「情報科学分野」を代表している人間ではないこと、それに個人的な事情なのですが、折から国際会議をひかえていたからです。

ともあれ、引き受けてしまった以上、やるしかありません。まあ個人的な事情は個人的な努力で解決するしかないし、「情報科学」については、知識と経験の豊富な先輩、同僚諸氏からアドバイスをもらうことにして、それに、自分のような、すこし特殊な位置にいる人間が担当することも、長い目で見れば悪いことではなからうなどと、自分を納得させることにしました。

「整備」にあたっては、ふたつの原則を立ててみました。

なるべく広範に、そして、自分の専門領域に関連して、ということです。

前者を実現するために、私の属する研究科内の情報系のグループにメーリングリストを通じて、声をかけてみました。結果は言うに及ば

ず・・でした。そこで畢竟、研究室の総力を挙げて取りくむことになりました。幸いにも、私の研究室の院生たちの出身学部は多岐にわたります。「総合科学」「情報科学」「電気電子」「開発工学」「教養」「経済」そして「情報文化」などなどです。多少無理はあるかもしれませんが、手分けして、書架に向かい、「廃棄」「閉架行」「買換え」をおこなったわけです。なにしろ入れ替わりの早い分野ですから、予想以上に煩雑な作業でした。

また「選書」についても、次のようなキーワードを挙げて、それを網羅するかたちで図書をリストアップしました。プログラミング、OS、CAD、CAM、リテラシー、データベース、CG、動画、AI、マルチメディア、インターフェイス、ネットワーク、セキュリティ、暗号、アーカイヴ、社会情報、情報文化、情報デザイン、メディアデザイン、メディアアート、電子芸術。研究室の個性が、それなりに機能しました。

これまでの蔵書の傾向から変わったのは、実際のところ、次の二点です。

一点は、社会科学的な視点を意識的に強化しようとしたことです。キーワードというなら、



い時を迎えた。情報検索・複写機能などは未整備だが、少しずつ利用しやすい図書室を目指したいと思っている。

集中の第一歩は踏み出したが、文学部所蔵図書の大半は従来通りの各専攻に分散配架されている。OPAC等で文学部所蔵と確認調査される

場合も、ぜひ配置場所として記載されている「文・」の研究室名を確認し、それぞれの配架場所（OPACの配置場所表示をクリックして該当研究室の部屋番号の表示を確認）でご利用下さい。

全集・叢書類、目録等の参考図書類等が、図書室の集密書架に配架されている。他大学の紀要類も従来どおり集密書架に配架されている。従来の研究室名から文図書に配置場所のデータ変更を順次行っている。作業終了時まで暫くかかり、ご迷惑をおかけする場合がありますがご理解願います。

なお、図書室と廊下をはさんだ1階奥には文学部・文学研究科の収蔵する真継家文書をはじめとした、文書類・貴重資料が貴重図書室、貴重資料室に整備されている。こちらの利用についてはそれぞれの規程にもとづいてご利用ください。

(ひさむね・じゅんこ 文学部図書掛長)

速報！平成15年度協議会賞を受賞

本誌No.145(2002.11.15)でも紹介しました当館の「和漢古典籍に関する知識と技術の継承プロジェクトグループ」の活動が、平成15年度国立大学図書館協議会総会において同協議会賞を受賞しました。

受賞理由は、図書館員の自主的な研鑽と研鑽報告としての企画展示「古書は語る」での具体的な成果などとなっています。

夏季期間も開館延長します!!

中央図書館では、夏季期間(8/1~8/31)中の平日の開館時間を22時まで延長することになりました(土・日曜日は17時まで)。

長く暑い夜、快適な図書館を充分にご利用ください。

注意：8月の休館日 28日(木)



SSSSSS 使ってみよう！電子ジャーナル SSSSSSSSSSSSS

Part.4 図書館HPから電子ジャーナルを <http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/>

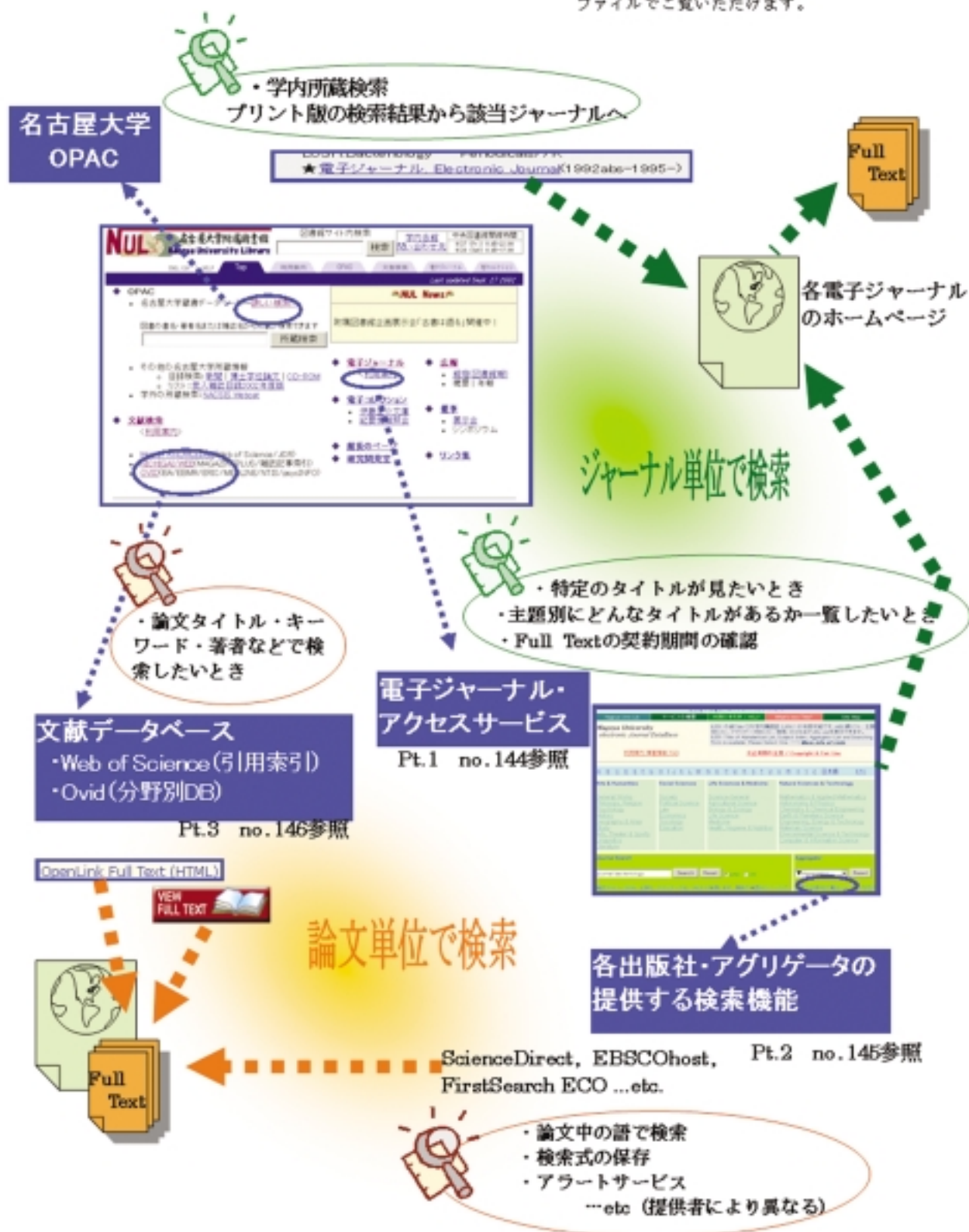
1年間にわたって連載してきたこのシリーズも今回が最終回です。これまで解説してきた名古屋大学で電子ジャーナルを見る方法について、次ページにまとめて図示しました。前回までの記事を見逃した方は、図書館HPの「電子ジャーナル」のタブから、バックナンバーを見ることができます。同じページに電子ジャーナル

に関する「お知らせ」や「FAQ(よくある質問と回答)」を掲載していますので、ご参照ください。利用やアクセスサービスについてのご意見・ご質問もHPから受け付けております。また、利用方法でわからない点については、中央館参考カウンターでいつでもお尋ねください。

(参考調査掛)

名古屋大学附属図書館ホームページと電子ジャーナル

本文中のPt.*は前号までの記事。
 附属図書館ホームページからPDF
 ファイルでご覧いただけます。



附属図書館サテライトラボをご利用ください

情報サービス課閲覧掛

2003年4月から、中央図書館4階に附属図書館サテライトラボが開設されました。情報メディア教育センターのサテライトラボ設置計画の一環となるもので、同時期に多くの他部局でも設置されています。

附属図書館サテライトラボは上記センターのアカウントを持つ学内者に開放されています。設備は、学生用PC端末21台、教管用PC端末1台、プリンター1台(用紙A4のみ)、プロジェクタ、マイク、OHP、ビデオ、DVD装置などを揃えています。学生用PCの個人利用と、教管用PCを利用した講習会などの利用が可能となっています。また従来どおり、図書館資料を使った演習室としての利用もできます。室内はウェブカメラによって受付カウンターでモニターしています。

4月の開設以来、多くの学生達に利用されています。TAによる図書館利用ガイダンスや、電子ジャーナル講習会などにも利用されています。図書館では簡単な立ち上げ方、終了の仕方などをガイドしたものを用意しています。より具体的な利用の仕方、活用の仕方等はセンターのガイドに従ってください。

また、中央図書館2階にはPC利用コーナー

があり、持参のノート型パソコンでインターネットの利用ができます。同じくセンターのIDパスワードが必要で、無線LAN(20台まで)と有線LAN(14台まで)のサービスをしています。必要なマニュアル一式、クライアントソフト、LANカード、イーサネットケーブルなども館内貸出しています。

利用者は、サテライトラボの利用に際しては、附属図書館、センターが定める規則等を遵守し、情報セキュリティ並びに情報倫理の保持に努めなければなりません。一人の方が長時間占有することなくお互い譲り合って快適な利用をお願いします。



サテライトラボとしての利用時間

	利用時間	入室チェック
平日	8:45~21:30	17:00以降は学生証による入室チェックあり
土・日曜、祝日	8:45~16:30	終日学生証による入室チェックあり
講習会等での利用 (申込者は本学の 教職員に限る)	平日のみ 9:00~21:00のうち 4時間以内	17:00以降は学生証による入室チェックあり

- * 利用時間を過ぎるとシステムが自動シャットダウンを行います。必ず利用時間内に終了してください。
- * 職員証では入室チェックができません。17時以降に利用される職員の方には2階受付カウンターで職員証と引き換えに入室カードを貸出いたします。
- * 講習会等での利用の予約は、利用の1ヶ月前から3日前の17時まで受け付けています。
- * 講習会等で室が利用されている間は個人利用ができません。

平成14年度特別図書（人文・社会科学系）一覧

- 1 . Women's Language and Experience, 1500-1940: Women's Diaries and Related Sources. Part 4
（女性の言語と経験）Mフィルム
英国の各機関に所蔵する女性史関係資料の集成。パート1-3は昨年までの特別図書で購入済。
パート4はスコットランド及びウェールズの国立図書館資料から。
- 2 . 国立国会図書館所蔵明治期刊行図書マイクロ版集成 Mフィルム
「教育」部門「教授法・各科教育」分野 第193-205（13リール）
「実業科・職業教育」分野（10リール）「特殊教育」分野（3リール）
「社会教育・家庭教育」分野（11リール）
国立国会図書館が所蔵する明治期刊行の教育図書群のうち「教授法・各科教育」分野等の図書の
マイクロ版。平成7年度からの継続購入。
- 3 . 向山誠齋雑記 嘉永・安政篇（全21冊）影印本
江戸幕府の勘定方役人向山誠齋が幕府の行財政・外交等に関する文書・記録・先例等を筆録した
もの。嘉永・安政篇はとりわけ対外関係、蝦夷地関係の史料を多く含む。
- 4 . 中外物価新報 19-34巻（全16冊）リプリント
『日本経済新聞』の前身で明治9年に発刊され、経済ジャーナリズムの基礎を築いた新聞の復刻
版。明治期日本の経済状況が克明に記録された基礎的かつ貴重な資料。
- 5 . 国立国会図書館所蔵「昭和前期期刊行図書デジタル版集成」 CD-ROM
社会科学部門・個人著作物・社会の内「社会一般・社会学・社会史・社会組織」
国会図書館所蔵の昭和前期の刊本を集成したもので、これまでは未公開で閲覧できなかったもの
や、発禁書も多く含まれ価値が高い。
- 6 . Documents on Education Development ; Supplement.（発展途上国教育総合調査研究公式資料集
成：各編補遺）145 Titles on 354 Microfiches.
発展途上国の教育に関する調査研究の公式資料集のうち、これまで購入のSupplement部分。
過去4年の継続。
- 7 . Scholarly Sources on Japan（海外における日本研究コレクション） リプリント
 - 1) Collected Works of Frederic Victor Dickins. 7 v.（F. V. ディキンズ全集）
 - 2) Collected Travel Writings of Walter Weston. 4 v.（W. ウェストン著作集）
 - 3) Collected Travel Writings of Isabella Bird. 12 v.（イザベラ・バード著作集）
 - 4) A Journal from Japan, a Daily Record of Life as Seen by Scientism, by Marie C. Stopes. 1 v.
（マリー・ストープス日本滞在記）
- 8 . 乙未本草会物品目録 天保6年刊、嘗百社蔵版 オリジナル
尾張本草学の研究団体「嘗百社」の社中が城南一向院で盟主水谷豊文の三回忌を開き、400点余
りを展示した際の目録。大河内重敦出品「レゼダ オドラク」銅版画を貼付（稀本）。

3333333333 [国内図書館関係日誌] 3333333333

- 15.4.22 平成15年度東海地区国立大学図書館協議会総会（於：浜松医科大学）
出席者：伊藤館長、内藤事務部長、北村情報管理課長、郡司情報システム課長
- 15.5.1 平成15年度第1回電子ジャーナル・タスクフォース（於：東京大学）
出席者：伊藤館長、郡司情報システム課長
- 15.5.13 愛知図書館協会理事会（於：愛知県図書館）
出席者：内藤事務部長
- 15.5.16 国際図書館協力シンポジウム（於：中京大学名古屋キャンパス）
出席者：逸村研究開発室助教授、秋山研究開発室助手、伊藤情報管理課課長補佐、鈴木美智子（情報システム課雑誌掛）
- 15.5.20 東海地区国立大学附属図書館長懇談会（於：名古屋大学）
出席者：伊藤館長
- 15.5.28 国立大学附属図書館事務部課長会議（於：東京医科歯科大学）
出席者：内藤事務部長、北村情報管理課長、臼井情報サービス課長
- 15.5.28 平成15年度愛知図書館協会定期総会（於：愛知県図書館）
出席者：伊藤館長
- 15.5.29 国立大学図書館協議会賞受賞者選考委員会（平成14年度第3回）（於：東京大学）
- 15.5.29 国立大学図書館協議会平成14年度著作権特別委員会（第2回）（於：東京大学）
- 15.5.29 国立大学図書館協議会常務理事会（平成14年度第3回）（於：東京大学）
上記3会議の出席者：伊藤館長、内藤事務部長、北村情報管理課長、臼井情報サービス課長
- 15.5.30 国立大学図書館協議会組織問題検討タスクフォース（於：東京大学）
出席者：伊藤館長、北村情報管理課長
- 15.5.30 国立大学図書館協議会理事会（平成14年度第4回）（於：東京大学）
出席者：伊藤館長、内藤事務部長、北村情報管理課長、臼井情報サービス課長
- 15.6.4 東海地区大学図書館協議会監事会（於：名古屋大学）
出席者：北村情報管理課長、伊藤情報管理課課長補佐
- 15.6.9 東海地区大学図書館協議会機関誌編集委員会（於：名古屋大学）
出席者：内藤事務部長、北村情報管理課長、伊藤情報管理課課長補佐
- 15.6.9 東海地区大学図書館協議会運営委員会（於：名古屋大学）
出席者：伊藤館長、内藤事務部長、北村情報管理課長、伊藤情報管理課課長補佐
- 15.6.10 電子ジャーナル利用アンケートに関する打ち合わせ（於：東京大学）
出席者：伊藤館長、逸村研究開発室助教授
- 15.6.12 平成15年度第2回電子ジャーナル・タスクフォース（於：東京大学）
出席者：伊藤館長、郡司情報システム課長
- 15.6.20 電子ジャーナル・タスクフォース次期体制検討チーム会合（於：京都大学）
出席者：郡司情報システム課長、澄川情報システム課雑誌掛長
- 15.6.24 国立大学図書館協議会第50回記念総会分科会主査打合せ会（於：大宮ソニックシティ）
出席者：内藤事務部長、北村情報管理課長、郡司情報システム課長
- 15.6.25～26 国立大学図書館協議会第50回記念総会（於：大宮ソニックシティ）
出席者：伊藤館長、逸村研究開発室助教授、内藤事務部長、北村情報管理課長、郡司情報システム課長、蒲生情報システム課図書館専門員

- 15.6.30 第57回（平成15年度）東海地区大学図書館協議会総会・研究集会（於：岐阜県立看護大学）
出席者：伊藤館長、内藤事務部長、北村情報管理課長、臼井情報サービス課長、伊藤情報管理課
課長補佐、河合情報システム課図書情報掛長、豊岡医学部分館保健学情報掛長

3333333333 【学内動向】 <15.4.6 ~ 15.6.30> 3333333333

会議

- ・伊藤圭介生誕200年記念展示会・講演会第2回実行委員会 <4.14>
- ・第15 - 1回附属図書館商議委員会 <4.16>
 - ・商議委員会内各委員会への委員の配属及び委員長、副委員長の選出について
 - ・附属図書館中央図書館コーナー小委員会委員について
 - ・平成15年度電子ジャーナルの追加導入及び平成15年度共通電子ジャーナル維持に係る部局拠出額について
 - ・年間の開催予定について
- ・館燈編集委員会（第15 - 1回） <4.22>
- ・第15 - 1回学術情報事務会議 <4.24>
- ・第1回法人化後の附属図書館の業務・組織等の検討ワーキンググループ会議 <5.9>
- ・平成15年度第1回研究開発室教国会 <5.12>
- ・伊藤圭介生誕200年記念展示会・講演会第3回実行委員会 <5.12>
- ・附属図書館WWW情報委員会 <5.13>
- ・蔵書整備委員会（第15 - 1回） <5.14>
- ・電子図書館推進委員会（第15 - 1回） <5.14>
- ・図書館システム検討委員会（第15 - 1回） <5.15>
- ・業務システム検討委員会（第15 - 1回） <5.16>
- ・第15 - 2回学術情報事務会議 <5.21>
- ・伊藤圭介生誕200年企画展示会ワーキンググループ会議 <5.22>
- ・第2回法人化後の附属図書館の業務・組織等の検討ワーキンググループ会議 <5.23>
- ・中央図書館購入自然系外国雑誌見直し検討委員会（第15 - 1回） <6.3>
- ・第3回法人化後の附属図書館の業務・組織等の検討ワーキンググループ会議 <6.5>
- ・第15 - 2回附属図書館商議委員会 <6.6>
 - ・商議委員会各委員会内規の一部改正について
 - ・商議委員会各委員会の正副委員長の選考方法につ

いて

- ・商議委員会の位置づけと附属図書館長選考について
- ・附属図書館の中期目標・中期計画・年度計画について
- ・行政機関情報公開法における附属図書館等の保有する図書館資料の取扱いについて
- ・平成15年度第2回研究開発室教国会 <6.9>
- ・学術情報開発専門委員会（第15 - 1回） <6.9>
- ・蔵書整備アドバイザー打合せ会 <6.11>
- ・第4回法人化後の附属図書館の業務・組織等の検討ワーキンググループ会議 <6.18>
- ・第15 - 3回学術情報事務会議 <6.19>
- ・伊藤圭介生誕200年企画展示会ワーキンググループ会議 <6.19>
- ・館燈編集委員会（第15 - 2回） <6.24>
- ・外国文学セクション小委員会（第15 - 2回） <6.27>

行事

- ・情報探索法指導者講習会（於：附属図書館） <4.2 ~ 4.7>
- ・名古屋大学附属図書館サテライトラボオープニングセレモニー（於：附属図書館） <4.7>
- ・新入生ガイダンス（於：豊田講堂） <4.9 ~ 4.10>
- ・留学生ガイダンス（於：シンポジオン） <4.9>
- ・留学生ガイダンスツアー（於：名古屋大学） <4.9 ~ 4.11>
- ・中央図書館利用ガイダンス（於：附属図書館） <4.15 ~ 4.18>
- ・電子ジャーナル&文献検索データベース利用講習会（於：附属図書館サテライトラボ） <4.21 ~ 4.23, 4.25>
- ・情報探索法指導者講習会（於：附属図書館） <4.22>
- ・附属図書館研究開発室第3回懇談会 - 18世紀の

思想家のマニスクリプトが開く世界：スコットランド諸大学の貴重図書室所蔵資料をもとにして - (於：附属図書館) <4.24>

- ・附属図書館長と全学図書系職員の懇談会 (於：附属図書館) <4.30> 参加者58名
- ・名古屋大学附属図書館職員研修 - 企業会計原則等の理解 - (於：附属図書館) <5.8>
- ・情報探索法指導者講習会 (於：附属図書館) <5.19>
- ・館長の職員への説明会 (於：附属図書館) <5.22> 参加者42名
- ・情報探索法指導者講習会 (於：附属図書館) <5.23>
- ・情報探索法指導者講習会 (於：附属図書館) <5.29>
- ・附属図書館研究開発室第4回懇談会 - 電子図書の現状と可能性 - (於：附属図書館) <6.10>
- ・ISIセミナー (於：附属図書館) <6.16> 参加者20名

研修会・講習会等への参加

- ・情報システム統一研修第4回データベースコース (於：名古屋大学) <4.21~6.30> 参加者：米津友子 (情報システム課雑誌掛)
- ・平成15年度東海地区国立学校等初任職員研修 (於：名古屋大学、三河ハイツ) <4.22~4.25> 参加者：大塩和彦 (情報サービス課閲覧掛) 川窪知子 (医学部分館保健学情報掛) 山本哲也 (情報連携基盤センター学術電子情報掛)
- ・平成15年度名古屋大学初任職員 (事務系非常勤職員等) 研修 (於：豊田講堂) <5.6~5.7> 参加者：照井香 (情報システム課雑誌掛)
- ・日経テレコン21 新テレコンスクール 基礎編及び応用編 (於：日経新聞社名古屋支社) <5.15> 参加者：大嶋寛子 (情報サービス課参考調査掛)
- ・JOIS研修会 JOIS入門 (コマンド) (於：科学技術振興事業団中部支所) <5.21> 参加者：橋本紀子 (情報サービス課参考調査掛)
- ・平成15年度愛知県地区国立学校等主任研修 (於：岡崎国立共同研究機構、ウェルサンピア岡崎) <6.18~6.20> 参加者：山盛正雄 (情報管理課庶務掛)
- ・セクシャルハラスメント部局受付窓口担当員研修 <6.25> 参加者：入山情報サービス課閲覧掛長

人物往来

<はじめまして> - 新しく採用になった人 -

- ・山本哲也 (情報連携基盤センター学術電子情報掛)
- 4.1 《前号の掲載漏れです。お詫びします》

規程等改正

- ・名古屋大学情報・言語合同図書室利用要項 (15.4.23改正)
- ・名古屋大学附属図書館図書システム検討委員会内規 (15.6.6改正)
- ・名古屋大学附属図書館中央図書館蔵書整備委員会内規 (15.6.6改正)
- ・名古屋大学附属図書館電子図書館推進委員会内規 (15.6.6改正)
- ・附属図書館商議委員会各委員会の正副委員長の選考方法についての申合せ (15.6.6新規)

部局動向

- ・国際開発情報資料室：新入生ガイダンス <4.9~4.11> 参加者延べ101名
- ・医保健学情報資料室：夜間開室延長 <4.11~> 毎週火・木曜日を1時間延長して20:50まで
- ・国際開発情報資料室：ProQuest講習会実施 <5.21> 参加者12名
- ・法学部図書室：改修工事のため共同教育研究施設へ移転して開室 <5.26~>
- ・経済学部図書室：第24回EDCセミナーを駐日欧州委員会代表部と共同開催 (於：文系総合館) <5.29~5.30> 参加者：近藤悦子 (他機関からの参加者19名)
- ・医分館：2003年度大学院基盤医科学実習「文献検索」実施 (於：医講義室&サテライトラボ) <6.24~6.30>

編集委員会

白井克巳 (委員長) 大澤剛 (中) 橋本紀子 (中)
白神由美子 (中) 近藤悦子 (経) 堀茂 (情文)
谷川澄子 (理) 澤田さとみ (工)